# 千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第16週（4/18-4/24）の発生は？

## 1　定点報告対象疾患（五類感染症）

| 報告のあった定点数 | | 16週 | 15週 | 14週 | 13週 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 小児科 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 眼科 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 基幹定点 | 1 | 1 | 1 | 1 |

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

| 定点 | 感染症名 | 千葉市 注意報 | 千葉市 4/18-4/24 16週 | 千葉市 4/11-4/17 15週 | 千葉市 4/4-4/10 14週 | 千葉市 3/28-4/3 13週 | 千葉県 4/11-4/17 15週 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小児科 | RSウイルス感染症 | | 2<br>0.11 | 1<br>0.06 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 8<br>0.06 |
| | 咽頭結膜熱 | ○ | 8<br>0.44 | 2<br>0.11 | 2<br>0.11 | 4<br>0.22 | 30<br>0.22 |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | ○ | 58<br>3.22 | 57<br>3.17 | 41<br>2.28 | 54<br>3.00 | 382<br>2.85 |
| | 感染性胃腸炎 | | 108<br>6.00 | 142<br>7.89 | 108<br>6.00 | 97<br>5.39 | 659<br>4.92 |
| | 水痘 | | 4<br>0.22 | 11<br>0.61 | 5<br>0.28 | 7<br>0.39 | 40<br>0.30 |
| | 手足口病 | | 1<br>0.06 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 2<br>0.01 |
| | 伝染性紅斑 | | 7<br>0.39 | 7<br>0.39 | 4<br>0.22 | 1<br>0.06 | 55<br>0.41 |
| | 突発性発しん | | 15<br>0.83 | 16<br>0.89 | 9<br>0.50 | 9<br>0.50 | 59<br>0.44 |
| | 百日咳 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 3<br>0.02 |
| | ヘルパンギーナ | | 1<br>0.06 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 1<br>0.01 |
| | 流行性耳下腺炎 | ○ | 14<br>0.78 | 14<br>0.78 | 7<br>0.39 | 14<br>0.78 | 164<br>1.22 |
| インフル | ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く） | | 95<br>3.39 | 102<br>3.64 | 119<br>4.25 | 187<br>6.68 | 792<br>3.70 |
| 眼科 | 急性出血性結膜炎 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | 流行性角結膜炎 | | 1<br>0.20 | 2<br>0.40 | 2<br>0.40 | 2<br>0.40 | 18<br>0.53 |
| 基幹定点 | 細菌性髄膜炎<br>（髄膜炎菌性髄膜炎を除く） | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | 無菌性髄膜炎 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | マイコプラズマ肺炎 | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | クラミジア肺炎<br>（オウム病を除く） | | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |
| | 感染性胃腸炎<br>（ロタウイルスに限る） | | 0<br>0.00 | 1<br>1.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 | 0<br>0.00 |

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

## 2　全数報告対象疾患（7件）

| 病名 | 性 | 年齢層 | 診断（検査）方法 | 病名 | 性 | 年齢層 | 診断（検査）方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 結核 | 男性 | 60歳代 | 病原体等の検出 | 梅毒 | 男性 | 40歳代 | 血清抗体の検出 |
| 結核 | 男性 | 80歳代 | 病原体等の検出 | 梅毒 | 男性 | 50歳代 | 血清抗体の検出 |
| 結核 | 男性 | 80歳代 | 病原体等の検出 | 梅毒 | 女性 | 20歳代 | 血清抗体の検出等 |
| 急性脳炎 | 女性 | 10歳未満 | 高熱及び中枢神経症状等 | － | － | － | － |

・第16週は、　結核3件（67）、急性脳炎1件（13）、梅毒3件（9）の報告があった。

※　（）内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数　第16週のコメント

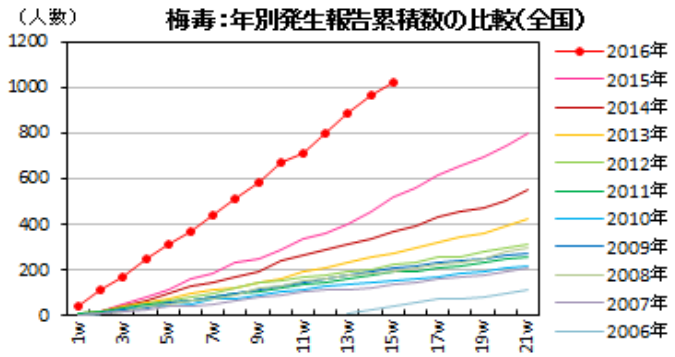
＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.44となった。過去10年の同時期と比べると最多。
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.22となった。過去10年の同時期と比べると最多。
＜流行性耳下腺炎＞前週よりから横ばいで0.78のままとなった。過去10年の同時期と比べると多い。

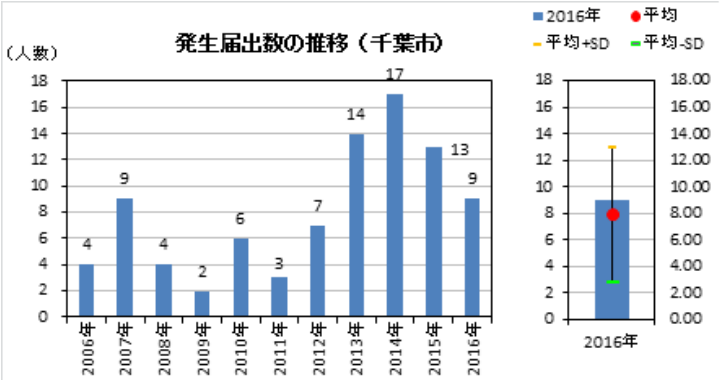
■ トピック ■

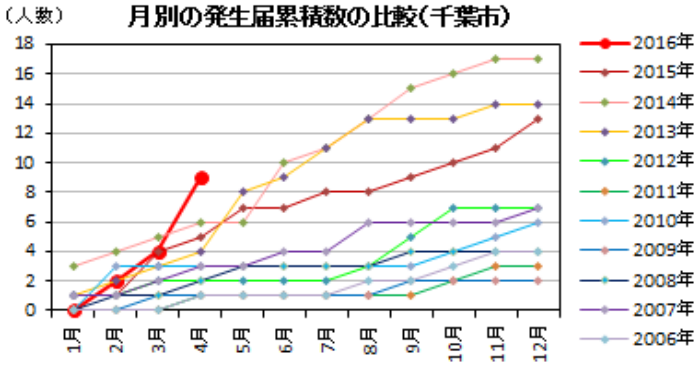
## ＜梅毒＞

全国レベルの第15週は、過去9年の同時期と比べると最多で、約2倍～約8倍となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国第6位となっています。千葉市では2012年以降増加傾向にあり、2016年は第16週に3件の発生届があり累積数が9件となり、月別の累積数を過去10年の同時期と比べると最多となりました。2012年から2016年第16週までの累積報告数（n=60）によると、性別では男性が68.3%（41名）、女性が31.7%（19名）で、年齢階級別では50歳代（23.3%：14名）、30歳代（21.7%：13名）、20歳代（20.0%：12名）の順に多くなっています。

また、病型は無症状が33.3%（20名）、早期顕症梅毒Ⅱ期が25.0%（15名）、早期顕症梅毒Ⅰ期が23.3%（14名）、晩期顕症梅毒が16.7%（10名）で、感染経路は性交が71.7%（43名）、不明が16.7%（10名）、性交及び経口が8.3%（5名）で、性交、性交及び経口の内接触の内訳は異性間が62.5%（30名）、同性間が20.8%（10名）、不明が16.7%（8名）となっています。

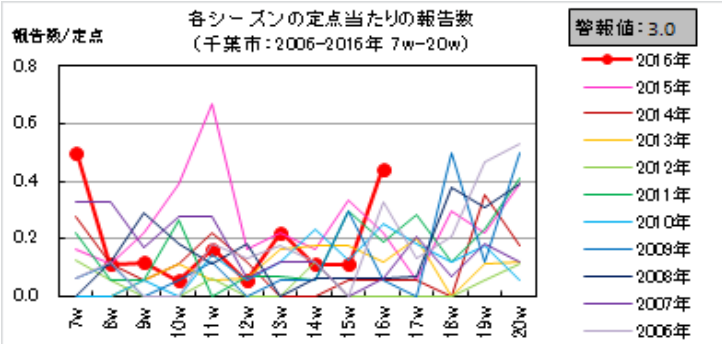


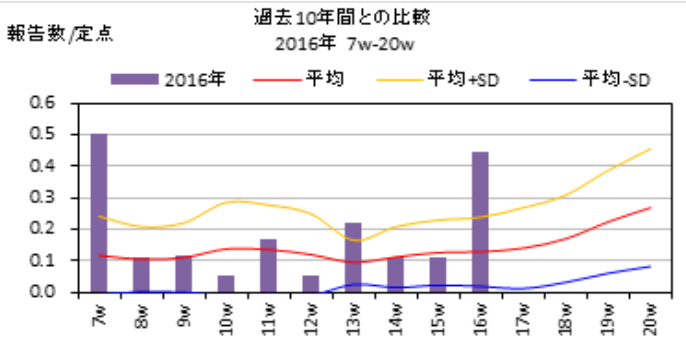



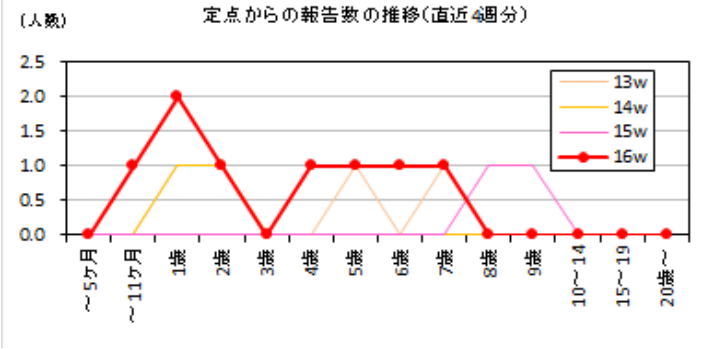



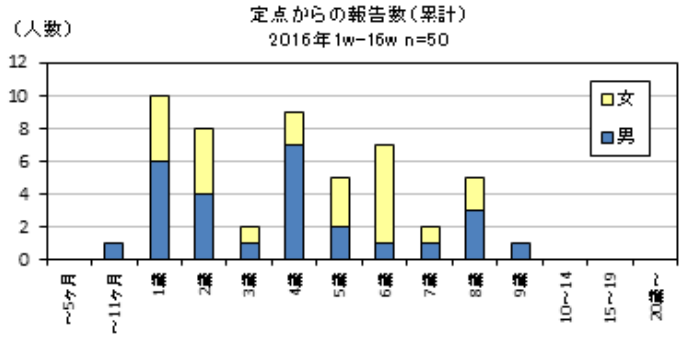

## ＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第15週は、過去9年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、石川県、鹿児島県、佐賀県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の第16週は前週より増加し0.44となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区（1.0/定点）で最も多く、同区の6～11か月、1歳、2歳及び4歳で発生報告がありました。2016年第1週から第16週までの累積報告数（n=50）によると、性別では男性が54.0%（27名）、女性が46.0%（23名）で、年齢階級別では1歳（20.0%：10名）、4歳（18.0%：9名）、2歳（16.0%：8名）の順に多くなっています。



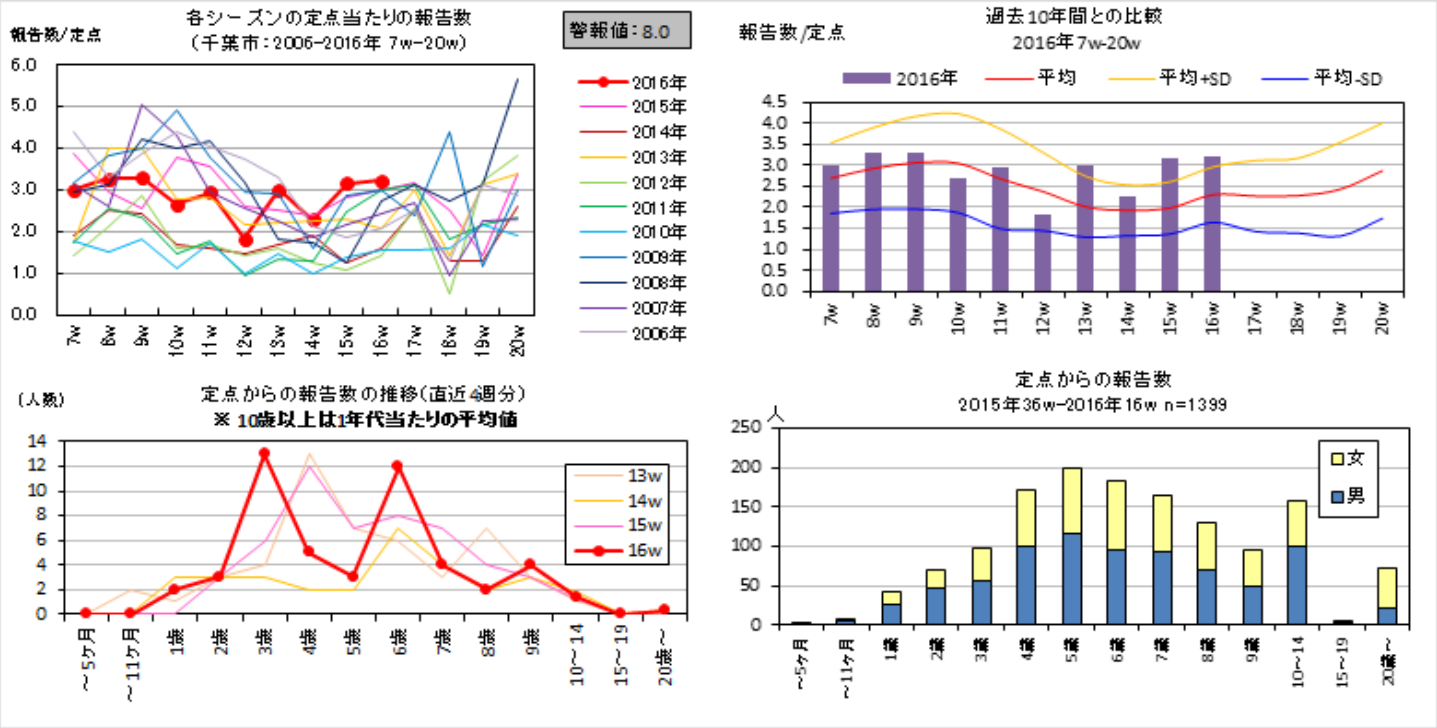



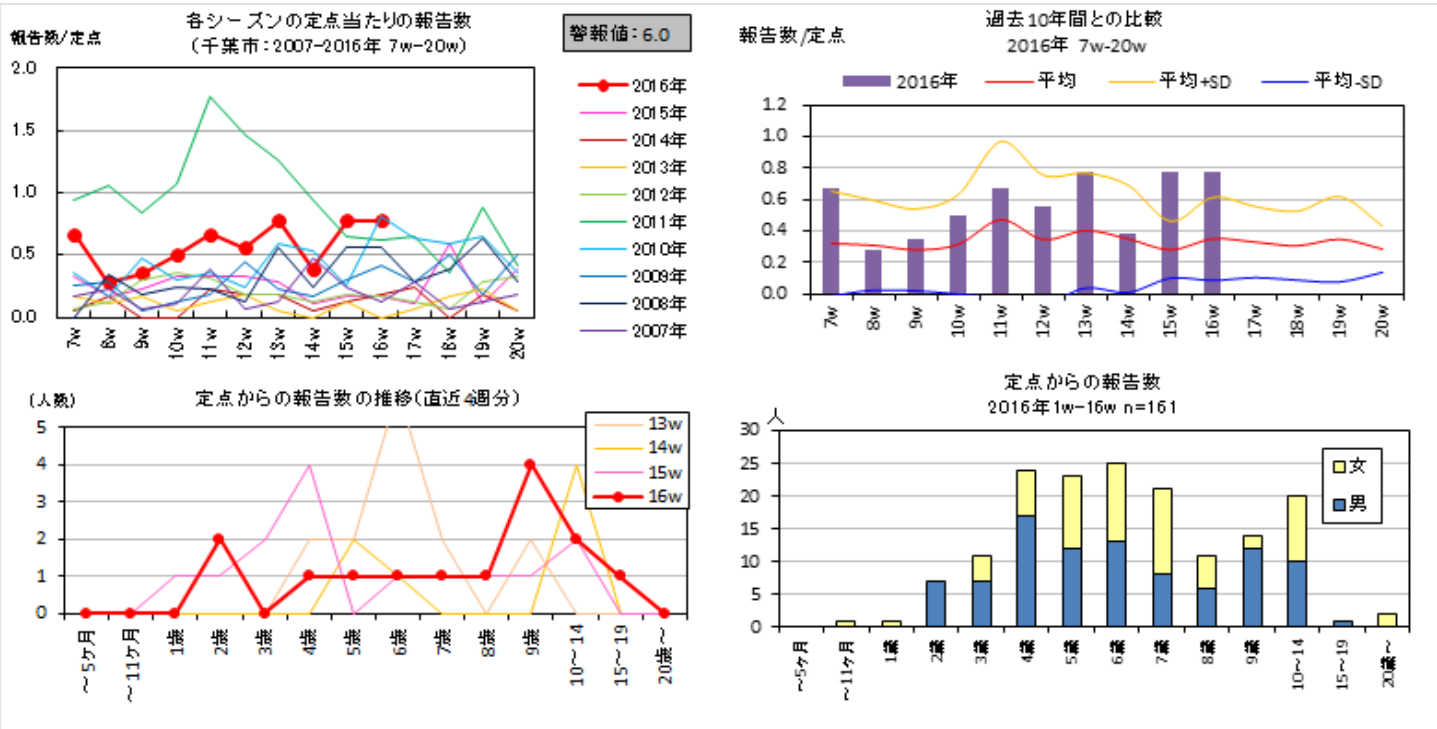



## ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第15週は、過去9年の同時期と比べると最多となりました。都道府県別では、山形県、鳥取県、北海道の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第16週は前週より更に増加し3.22となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区（7.0/定点）で最も多く、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第16週までの累積報告数（n=1399）によると、性別では男性tが56.5%（790名）、女性が43.5%（609名）で、年齢階級別では5歳（14.2%：199名）、6歳（13.2%：184名）、4歳（12.3%：172名）の順に多くなっています。




## ＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第15週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、山形県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第16週は前週より横這いで0.78のままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区（2.0/定点）で最も多く、同区の9歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第16週までの累積報告数（n=161）によると、性別では男性が57.8%（93名）、女性が42.2%（68名）で、年齢階級別では6歳（15.5%：25名）、4歳（14.9%：24名）、5歳（14.3%：23名）の順に多くなっています。